

(公開学習Ⅰ)

第3学年2組 体育科学習指導案

授業者 新 康江
体育館

1 単元名 マット運動の名人をめざそう

2 授業構成

(1) 教材に対する反省と新しい提案

本単元は、新学習指導要領第3, 4学年の目標に次のように位置づけられている。

B 器械運動

(1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その技ができるようにする。

ア マット運動では、基本的な回転技や倒立技をすること。

(2) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることできるようにする。

(3) 自己の能力に適した課題をもち、技ができるようにするための活動を工夫できるようにする。

器械運動はできる・できないが明確であるだけに、技能の向上を保障する教材づくりや学習指導が重要であるとされる。具体的な技の達成が明確なだけに、達成の喜びとともに、達成できないときの意欲の低下も大きい。したがって、達成を保障するために、類似の運動感覚を味わうことができる運動を準備すること、達成が容易になるような場の設定を工夫すること、達成の容易な技から難しい技へと学習が進むような資料を準備しておくことが大切になってくる。

一方で、器械運動は、

○技を身につけたり、新しい技に挑戦したりするときに楽しさや喜びを味わうことができる

○技を繰り返したり、技を組み合わせて行ったりするときなどにも楽しさや喜びを味わうことができる

○体の回転や倒立など、日常生活では通常行われない動きを含んだ運動を行うことができる

が特徴であるとされている。

そこで今までのマット運動の取り組みを振り返ると、柔軟性に欠いたり逆さ感覚が苦手だったりする児童は、授業のスタート時から技能的なつまづきから、楽しさやおもしろさを感じる事が難しくなってしまう。またマット運動では、低学年時一斉指導でポイントを一方的に伝え、「できるようにすること」に重点を置いてしまう傾向があった。そこで児童自身が「わかってできる」ようになるために、主体的に学び、思考・錯誤するような授業づくりをめざすためには、まず一人一人が明確な課題を持って活動に取り組み、仲間とともに達成感や満足感を味わえるようにしていきたいと考えた。

(2) 子どもの学びの実態・期待する学び方

本校の体育科のテーマは、「豊かなかかわりと思考を高める学び合いのある体育科学習」である。「豊かなかかわり」とは、「教材とのかかわり」はもちろん、「子どもたちの思考を高める教師のかかわり」や「子ども同士の学び合いにおけるかかわり」ととらえている。

本学級の児童(男子15名、女子23名 計38名)は、日頃から外遊びでしっかり体を動かす児童は、事前に実施した体育に関わる意識調査でも高い関心をもっている。「体育の学習は好きですか」という質問に対し、「すき」「まあまあすき」と答えた児童が84%であった。さらに、「体育の学習は楽しいですか」の質問にいたっては、「とても楽しい」「まあまあ楽しい」と答えた児童は100%という結果であった。このことから、本学級の児童が体育学習に高い興味関心をもっていることがわかる。一方、「マット運

動は好きですか」という質問になると、「好き」と答えた児童は、68%と数値が下がっている。体育学習が楽しいと感じていた児童も、マット運動では、「体がかたいから」「技の種類が少ないから」「変な方向に行くから」などといった理由で苦手意識を持っている児童もあるようである。

このような実態をふまえ、誰もがつまづき感を持たないよう、低学年で身に付けてきた動きと運動感覚をもとに、まずは自己の能力に適した技を選んだり、課題が易しくなるような場や補助具を活用して取り組んだりしながら、基本的な技ができるようにしていきたい。そのために、導入の段階で基礎となる感覚を段階的に習得できる運動を有効に取り入れていくようにしたい。また、誰もが一通りの技の動きを体験できるように、易しい課題だけでなく技の練習の仕方やポイント、動き方を知る機会を用意するようにしたい。その上で自分の力に応じた練習方法や練習の場を選ばせたい。同時に、自分の力に合った課題選びも大切になってくる。そこで、一人一人が自分の課題をもって工夫しながら活動に取り組み、仲間と互いに励まし合い、高め合い、助け合って学習を進めていけるようにしたいと考える。

（３） 本時の学習に向けての教材研究

指導にあたっては、「わかること」と「できること」をつなげた学習展開を意識しながら、児童が「おもしろい」と感じる授業づくりをめざしたい。ゴールデンエイジと言われる3年生のこの時期に基本的な回転技や倒立技に取り組み、それぞれについて自分の能力に適した技ができるようにさせたい。その際、すべての児童が運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、技に関連した易しい運動遊びを取り入れたり、易しい場や条件のもとで段階的に取り組めるようにしたりしたい。本単元では、「わたしたちの体育」をできるだけ活用して学習を進めていくようにした。まず、導入時の「やってみよう」の活動では、ゆりかご、丸太転がり、横転がり、かえるの足打ち、壁登り・肋木登り等をしてしながら、類似の易しい動きを通して、主運動につながりできるようになるための感覚や動きをしっかりと身につけさせたい。次の活動①では、いろいろな回転技(前転、後転)や倒立技(壁倒立、腕立て横飛び越し)を取り上げ、自分に合っためあてを設定しつつ技の完成度を高めるようにしたい。その際、技のポイントを児童に発表させたり、教師が提示したりしながらどの部位に着目して練習すればよいかを明確にして技の完成度を高めるようにしたい。友達同士で、良くなったところや技のこつを伝え合いながら児童が友達の技を手本としながら、課題に気づけるような言葉かけを具体的に行うようにする。

活動②では、活動①で習得した技を繰り返したり組み合わせたり、新しい技・発展技(大きな前転、開脚前転)にも挑戦したりしていきたい。その際、一つ一つの技をていねいに行った上で技がスムーズにつながるよう練習し、連続技や組み合わせ技の安定感もめざしたい。発表会を学習のまとめとしているので、グループの友達同士で声をかけ合ったり補助をし合ったりしながら、少しがんばればできそうな技にも挑戦し、一人一人がイメージしている「マット名人」に近づけるようにしていきたい。ともに、技能の上達をめざしながらかかわり合うなかで、児童に満足感や達成感を共有させていきたいと考える。

3 単元目標

- 基本的な回転技や倒立技をすることができるようにする。(技能)
- 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動したり、場や器械・器具の安全に気をつけたりすることができるようにする(態度)
- 自己の能力に適した課題を持ち、技ができるようにするための活動を工夫できるようにする。(思考・判断)

4 単元計画（全6時間）

1	2・3・4	5（本時）・6
オリエンテーション ○ 学習のねらいや進め方を知り，単元の見通しを持つ。 ○ 器械・器具等の使い方について知る。 ○ きまり，学習の場，安全面について知る。 ○ 「やってみよう」を行う。 ○ 学習のまとめの仕方を知る。	○ いろいろな技ができるようにする。（活動①） ・「やってみよう」を行う。 ・回転技（前転，後転）や倒立技（壁倒立，腕立て横跳び越し）の運動を行う。 ・できるようになった技を友達と見せ合う。 ・本時のまとめをする。	○ 技を繰り返したり組み合わせたりする。（活動②） ・技の繰り返しをする。 ・発展技（開脚前転，開脚後転，大きな前転）に挑戦する。 ・技の組み合わせを考え，できそうな技に取り組む。（本時） ○ 発表会で自分の技を発表し合う。 ○ 単元のまとめをする。

5 本時の学習について

（1）本時の目標

○自分の力に合った技に取り組み，さらに自分の考えた組み合わせ技に楽しんで挑戦することができる。

（2）期待される児童の様相

- A 自分の力に合った技や発展技を進んで取り入れ，考えた組み合わせ技にめあてを意識しながら挑戦することができる。
- B 自分の力に合った技に取り組み，自分の考えた組み合わせ技に楽しんで挑戦することができる。
- C 自分のできる技に取り組み，友達とともに自分の考えた組み合わせ技に慣れる。

(3) 本時の展開 (○教師の意図 ◇全体への支援 ◆個への支援 ●評価)

学習活動	教師の支援・意図	評価
1 本時の学習の流れを確認し、めあてをもつ。	◇どの技をどのような順につないでいくか、個々の学習カードや掲示物で確認させる。	
2 「やってみよう」を音楽にのって行う。	○本時の主運動につながる動きを自由に取り入れて体ほぐしをする。 ◆一人一人が課題に気づけるよう、具体的な言葉かけを心がける。	●本時のねらいも意識しながら、楽しんで体ほぐしをすることができたか。
自分の力に合った技を組み合わせ、調子よくできるようにしよう。		
3 自分の技の見せ場やポイントを友達と伝え合う。	○回転技の組み合わせや回転技・倒立技の組み合わせなど、個々の技の見せ場やポイントを話し合うことで自分のめあてをより明確にさせたい。	●自分の技のポイントを明確にし、友達に伝えることができたか。
4 グループ毎に個々の技を練習する。 ・前転→開脚前転 ・前転→足交差→後転 ・前転→側方転回	◇技の達成度が不十分な児童には、教師はもちろん、友達同士で補助をし合うようにさせ、安全面に配慮する。 ○友達同士で見合いながら、技のポイントや見せ場について、お互いに声をかけ合うようにさせる。 ◆技が少しでも上達した児童には、賞賛し自信を持たせる。	●ねらいにそって連続した動きがスムーズにできているか。
5 全体の場で技の発表を2～3名の児童が行い、成果を話し合う。	○動きのスムーズさ(流れ)、リズム、技の正確さ、力強さ、バランスなどについてよかったところや直すべき点を発表させる。 ◆技を発表する児童は、技の組み合わせや見どころをみなに伝えてから演技するように助言する。	●友達のがんばりや動きの工夫を進んで見つけ、賞賛することができたか。
6 本時の学習のまとめをする。	○自分のめあてが達成できたかを確認し、次時の発表会への意欲を高める。	●前時と比べて上達したところ、さらに発表会に向けての課題をまとめることができたか。
7 後片付けをする。	◇安全に配慮しながら、グループで協力し片付けを行うよう声をかける。	

(4) 参考文献

体育科教育学入門(大修館書店)

小学校体育まるわかりハンドブック(中学年)